

平成28年度 村上市理科部 活動報告

部長 馬場 晴也（山辺里小）

1 研究主題

- (1) 進んで学習に取り組む児童を育てるための指導法について研修を深める
- (2) 自然に親しみ、身近な植物について学ぶ

2 研究の概要

- 4月28日 部会（総合文化会館）
- ・昨年度の事業内容の報告
 - ・平成28年度活動計画の作成
- 8月 3日 研修会「夏の植物観察会」（虚空蔵山）
- ・講師 河内 花子 様（理科センターと共催事業）
- 8月19日 指導案検討会 提案者 山辺里小学校3年担任 村山祐太 教諭
- (1) 単元名 「明かりをつけよう」
 - (2) 内 容 主として指導案検討会
- 10月 4日 授業研究 提案者 山辺里小学校3年担任 村山祐太 教諭
- (1) 単元名 「明かりをつけよう」
 - (2) 内 容 授業公開後、協議会

3 研究の実際

(1) ねらい

塗料を塗ったスチール缶やアルミニウム缶が電気を通すか調べ、表面を削ると電気を通すことを理解することができる。

(2) 本時の様子

- ・ 前時までにはアルミホイルや釘などは電気を通すことを確認している。また、紙やプラスチックは電気を通さないことも確認してから授業に入った。
- ・ 「あきかんは電気を通すかはっきりさせよう」というめあてを掲げて一人1個の空き缶と豆電球つきテスターを持って行き、実験を行った。児童は思い思いに缶にテスターの先端部を当て、豆電球がつくか実験をしていた。
- ・ テスターの豆電球がつく児童とつかない児童がいる中、なぜなのか疑問に思う児童が増えた。
- ・ 何か塗ってあるところは見つからないということから、缶の表面を「削りたい」という声が上がった。
- ・ まとめはうまくいかなかったが、缶の表面の塗料を削ると電気が通ることにはほとんどの児童が確認することができた。

4 成果と課題（○成果 ●課題）

- 児童一人に1セットの実験器具を準備し、個々の実験を保障することで進んで学ぶことができた。
- 児童一人一人の異なる実験結果をつなぐことで、疑問をみんなで解決しようという意欲をもたせ、協力し合い学習に取り組ませることができた。
- 夏の植物観察会では、参加者自らが自然に親しみ、身近に教材で活用できる植物のあることを知った。学校の近くを調べようという意欲にもつながったと感じる。
- いつ実験を始めて良いか迷っている児童が見られた。自分から進んで取り組むために、黒板に学習の見通しと課題から考察までの流れが明確に示されていることが必要である。
- 児童の思考や実験を途切れさせないために作業や指示のタイミングを考える必要がある。